

セッション名：教育講座2：研修医，臨床検査技師，看護師対象
セッションタイトル：心電図“見た目も大事、中身も大事”

座長：山科 章（東京医科大学循環器内科）

循環器診療において心電図が重要であることは当然として、救急の現場においても心電図はきわめて重要な意味を持つ。救急にはさまざまな患者が来院するが、どんな疾患・病態においても心電図の確認は重要である。一刻を争う救急現場では、一瞬にして異常か正常かを判断し、異常であれば、すぐに対応する必要があるのか、様子を見てよいのか、すなわち、患者あるいは心電図の見た目で、何がおかしいかに気付き、“緊急”、“非緊急”とすみ分けることが必要である。すなわち、一瞬の見た目で、正しい治療へと導く判断を下さなければならない。不整脈も同様であり、とくに救急では見た目で判断して対応するが、心電図をさらに深読みしてその中身、すなわち不整脈の発生機序・誘因なども読み込む必要がある。そういったことから、今回の企画を、見た目も大事、中身も大事とテーマを掲げ、二人の先生に講演をお願いした。

講演1では、救急現場での初期の患者対応における心電図所見の読み方・判断について、救急医療にも造詣の深い獨協医科大学心臓・血管内科の菊地研先生に講演をいただく。講演2では、不整脈を中心に心電図1枚から循環器専門医は何を考えるかという趣旨で不整脈専門医の東京医科大学八王子医療センター循環器内科の里見和宏先生に講演をいただく。

お二人とも、それぞれその道の第一人者であり、とても興味深い講演が期待される。心電図に関心がある方、あるいは少しでも関わっている方の聴講をお勧めする。